

臨床検査に関するお知らせ



株式会社セントラル医学検査研究所

TEL(本社)029-225-8858 (下館)0296-28-5900

先生各位

平成 26 年 1 月

B-14-01

検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、下記検査項目におきまして分析装置の変更に伴い、報告様式、報告日数等を変更させて頂きたくご案内申し上げます。

尚、基準値や診断基準については裏面を、臨床的意義と報告様式は別紙をご参照下さい。

何卒ご了承賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

◆ 実施日 平成 26 年 1 月 10 日（金）ご依頼分より

◆ 変更内容

2013 年 検査案内	項目 コード	検査項目	変更内容	新	旧
未掲載	39030	骨塩定量	検査方法	DIP 法	CXD 法
			報告様式	別紙参照	専用報告書
			報告日数	3～5日	2～4日

次面に続く

骨塩定量 (DIP 法) における基準値と骨粗鬆症診断基準

◆ [原発性骨粗鬆症診断基準] (2000 年改訂版)

YAM: 若年成人平均値 (20~44 歳)

判定	骨密度値	脊椎X線像での骨粗鬆症化	女性 YAM 値	男性 YAM 値
正常	YAM の 80%以上	なし	2.864	2.907
骨量減少	YAM の 70%以上~80%未満	疑いあり		
骨粗鬆症	YAM の 70%未満	あり		

上記は、脆弱性骨折を認めない場合の診断基準値です。脆弱性骨折とは、低骨量 (骨密度が YAM の 80% 未満, あるいは脊椎 X 線像で骨粗鬆症化がある場合) が原因で、軽微な外力によって発生した非外傷性骨折です。骨折部位は脊椎, 大腿骨頸部, 橈骨遠位部, その他です。

* 男性の診断基準は、「原発性骨粗鬆症診断基準値」における女性の診断基準に照らした参考基準値です。

◆ [DIP 法における第二中手骨骨密度の基準値]

女 性										
年齢	例数	骨密度:m-BMD			判定パラメータ					
		平均値	SD	平均値±2SD	YAM値	80%値	70%値			
20~24	2,252	2.788	0.24	2.308~3.268	2.864	2.291	2.005			
25~29	3,192	2.854	0.242	2.370~3.338						
30~34	5,653	2.877	0.241	2.395~3.359						
35~39	7,032	2.88	0.247	2.386~3.374						
40~44	7,263	2.867	0.25	2.367~3.367						
45~49	9,163	2.835	0.258	2.319~3.351						
50~54	8,382	2.705	0.289	2.127~3.283						
55~59	8,190	2.502	0.294	1.914~3.090						
60~64	7,337	2.375	0.288	1.799~2.951						
65~69	5,854	2.272	0.286	1.700~2.844						
70~74	2,688	2.172	0.289	1.594~2.750						
75~79	952	2.073	0.31	1.453~2.693						
80~84	223	1.975	0.279	1.417~2.533						
85~	43	1.847	0.253	1.341~2.353						
計	68,224									

男 性										
年齢	例数	骨密度:m-BMD			判定パラメータ					
		平均値	SD	平均値±2SD	YAM値	80%値	70%値			
20~24	156	2.907	0.293	2.321~3.493	2.907*	2.326*	2.035*			
25~29	335	2.932	0.273	2.386~3.478						
30~34	250	3.01	0.279	2.452~3.568						
35~39	365	3.047	0.289	2.469~3.625						
40~44	517	2.997	0.3	2.397~3.597						
45~49	665	2.952	0.304	2.344~3.560						
50~54	826	2.96	0.291	2.378~3.542						
55~59	708	2.931	0.311	2.309~3.553						
60~64	621	2.939	0.311	2.317~3.561						
65~69	562	2.884	0.349	2.186~3.582						
70~74	355	2.836	0.326	2.184~3.488						
75~79	171	2.774	0.376	2.022~3.526						
80~84	59	2.796	0.362	2.072~3.520						
85~										
計	5,590									

骨塩定量 (DIP 法)

◆臨床的意義

本検査はその骨密度をあらゆる骨塩量を Digital Image Processing (DIP) 法を用いて測定するものである。DIP 法は第 2 中手骨の骨量を測定する方法で、その原理は MD (Microdensitometry) 法とほぼ同様であり、両手を X 線撮影する際にコントロールとして専用のアルミ製のスロープを合わせて置く。現像された X 線フィルムを高分解能画像処理装置により解析する。DIP 法では骨濃度に相当する値を得ることが主目的とされるため、パターン内の骨濃度の積分値を骨幅で除した値、m-BMD 値 (ΣGS/D 値) により診断される。また、第 2 中手骨の中央部 10% 部分の平均骨皮質幅 (MCI) も同時に算出される。

◆新報告様式

骨塩定量検査(DIP法)報告書

020-03 P. 1(1)

施設名 (031433) 株式会社セントラル医学検査研究所	様	撮影日 14 年 1 月 4 日
患者名 フルムラ ヨシコ	様	受付日 14 年 1 月 10 日
カルテNo	期当座 先生	報告日 14 年 1 月 11 日
生年月日 年 月 日	年齢 76才	性別 女
科名	病棟	電話番号 01440005
	階 入 外	

今回測定値

経過観察

DIP	撮影日	14年 1月 4日
	受付番号	01440005
	m-BMD	1.73
	%	60
	MCI	0.327
	左	

原発性骨粗鬆症診断基準 (2000年度改訂版より)			
別定	骨密度値	腰椎X線像での骨粗鬆症化	男YAM値 / 女YAM値
正常	若年成人(20~44歳)平均値:YAMの80%以上	なし(骨萎縮なし)	2.907 / 2.864
骨量減少	若年成人(20~44歳)平均値:YAMの70%以上~80%未満	疑いあり(骨萎縮I度)	
骨粗鬆症	若年成人(20~44歳)平均値:YAMの70%未満	あり(骨萎縮II度)	

上記は、脆性骨折を認めない場合の診断基準です。脆性骨折とは、低骨量(骨密度がYAMの80%未満、あるいは脊椎X線像で骨粗鬆化がある場合)が原因で、軽微な外力によって発生した非外傷性骨折、骨折部位は脊椎、大腿骨頸部、橈骨遠位端、その他。
※男性の診断基準は、「原発性骨粗鬆症診断基準」における女性の診断基準に照らした参考基準です。

コメント
CRフィルムの為、参考値です。基準値はX線フィルムによるものです。

次回検査は 14 年 7 月頃をおすすめします。(英訳) 検査責任者 上道野

骨量検査結果

フルムラ ヨシコ 様 76才 検査測定日 14 年 1 月 11 日

あなたの骨のレントゲン濃度測定の結果は、骨量 (DIP値) : 1.73 mmALです。

あなたの骨量は、下のグラフに●で示されています。

あなたの今日の骨量検査結果

あなたの骨量の移り変わり

検査日	14年 1月 4日
骨量	1.73

あなたの骨の状態

あなたの骨量は

- 若年成人(20~44才)の平均的骨量に比べて **60 %** です
- あなたの年齢に照らした平均的骨量で見ると **83 %** です

検査結果の読み方
骨量は年齢相応ですが、危険水準まで減少しています。骨粗鬆症の疑いがありますので、医師の指導を受けて下さい。

次回骨量検査は 年 月頃に行います。

受診施設名 株式会社セントラル医学検査研究所 担当医

測定機関 三菱化学メディエンス